第３回　学部合同入学式

江田　麻季子　氏　　～祝辞～

ただ今、ご紹介いただきました、江田でございます。本日は、このような皆様の晴れがましい席におきまして、ご挨拶をさせていただけますことを感謝しますと同時に、私を育ててくれた本学において、後輩の皆様の前に今日立てますことをたいへん光栄に思っております。

このたび早稲田大学に入学なさった皆さん、おめでとうございます。また、本日のこの場には、皆さんの勉学を支えて下さったご家族・ご関係者の皆さまも、多数ご出席になられています。皆さまにも心よりお祝いを申し上げます。
この早稲田大学は、学問・経済・政治などの幅広い分野において、優秀な人材を世の中に送り出している伝統ある学び舎で、皆さんもその一員として、これから本学で学び、その歴史を作っていくこととなります。この伝統の一員となれることを
ぜひ誇りに思っていただければと思います。

さて私ごとですが、1988 年に文学部社会学科を卒業いたしました。今回、本日の入学式に出席するにあたり、改めていろいろと学生時代のことを思い返してみました。入学式に出席したときに、すいぶんと大きな学校に来たなと実感し、何だか社会に一歩を踏み出したようで、ちょっと、どきどきしたのを覚えています。また、校風は自由で、いろいろなことに情熱的な先生や仲間から刺激を受けたことも心に残っています。それというのも、この学生時代の中で、新たなことにチャンレンジしていくという精神が私に鍛えられたからです。今から思えば、これがおそらく、この早稲田大学がずっと受け継いでいる伝統なのだと思います。このチャンレンジ精神のおかげで、さまざまな世界に動じることなく飛び込んで行けたのだと、そしてそれが今の自分を形作っていると信じています。学生時代の 4 年間は、たったの 4 年間ですが、されど貴重な 4 年間です。今までの高校時代や、将来、社会人になってからの時代より、はるかに自主性を持って行動できる時期だと考えます。人生の中でもとても充実したこの時間を使って、いろいろと興味の幅を広げていただき、まず自分自身を成長させるように努力してみてください。

そこでひとつ、この成長という観点から、考えていただきたいことがございます。
当たり前のことですが、社会は人で成り立っており、今のようなグローバル社会においては、ますます色々な人との関わりは不可欠です。それは国内にいてもそうですし、海外ではもちろんです。色々な価値観の人間がいる中では、どのようにそれぞれの良さを取り込んで、それを自分に活かしていくか、が重要になります。それが最近、特に社会でも話題になっており、皆さんも耳にしたことがあるかもしれません、「ダイ

バーシティ、多様性」ということです。
ここでは、私の経験、チャレンジしてきた道のりも踏まえ、お話ししたいと思います。

多様性という考え方ですが、単純に、人に関するいろいろなことが多様であるということです。例えば、一番わかりやすいところでは、性別ということです。その他、年齢、国籍、民族、あるいは宗教の違い、身体的差異などが挙げられます。また、このような生まれ持った先天的な要素だけではなく、後天的に備わったグローバルな考え方や言語のスキル、それから学業・職業を通じて得た技術なども多様性の一つと考えられると思います。このように多様性には、持って生まれた先天的な要素と、体験を通じて獲得した後天的な要素が存在します。
では多様性がなぜ重要なのでしょうか？とても簡単な理屈を言いますと、例えば企業において、製品を作って販売することを考えてみましょう。その製品の企画を男性だけ、あるいは女性だけで考えていたとしたらどうでしょう。世の中の半分は男性で半分は女性なのですから、それぞれの目線でしか作られていない製品は、どちらにしか売れないリスクがあります。これはとても単純化した話しですが、分かりやすいと思います。このように、新しいアイデアを創り出していく大きな視点のひとつが、多様性ということになります。

また、多様性のもうひとつの重要な側面は、急速な変化への対応ということです。世の中は急速に変化をしています。今日のビジネスのルールが、ちょっとの間ですぐ変わってしまいます。IT 業界では特に顕著ですが、その業界の優れたプレーヤもすぐ入れ替わってしまうような時代です。この現在、そして未来の急速な変化に対応していくためにも、多様性を受け入れることは重要です。今のグローバル社会に対応していくには、個人の能力だけではとても難しく、幅広い知識と経験が必要になります。ですから、いろいろな価値観を受け入れて、いろいろな人の知見を取り入れて活動するという多様性は役に立ちます。

ここで私の持論を申し上げますと、企業などの組織がさらに進化していく、成長していくためには、いろいろなことを革新していくこと、新しいものを生み出して行くこと、いわゆるイノベーションというものが必要不可欠であり、そのイノベーションを起こすには多様性が必要だということです。様々な見方やアイデアを持ち寄り、今までと違うもの、さらに進んだものを創り出していくという姿勢がないと、現在のビジネスで生き残ることはできません。そしてこれは、企業や組織にだけ言えることではないということです。
企業や組織を構成しているのは、そのメンバーひとりひとりですから、最終的には、個人が多様性を受け入れていくことができるか、その多様性を自分のものとしていけるかが大事なのです。

私自身も、多様性の中で成長してきました。大学卒業後に、米国に渡り、大学院に進学しました。その当時は、英語が流暢に話せるわけでもなく、また周りに日本人がほとんどいないという環境でした。言葉も文化も習慣も違う中に飛び込んでいったことで、いろいろなことを学んできました。多様性を受け入れて、その中で自分を出していくということが自然にできるようになるまでには、やはりそれなりの時間はかかりました。ですが、その中で、いろいろな人と交流することの楽しさ、素晴らしさを学んできました。その後、日本に帰国、しばらく仕事をしたあとに、また香港に渡り、今度はアジアの皆さんと活動しました。これもまた、自分を大きく成長させてくれた経験でした。

個人の成長にも組織の成長にも学問の発展にも、この多様性は大切だと考えます。今年、早稲田大学に入学される方々は、学部と大学院を合わせて
約 12,000 名と伺っています。そのうち、女子学生の割合はおおよそ 40%弱、留学生の皆さんは約 6%だということです。このように、国内のいろいろなところから集まった学生、海外からの学生、性別やその他いろいろな背景をお持ちの皆さんが一緒になって、それぞれの能力と持ち味を発揮しながらお互いに刺激しあうことで、新しい活力や創造力が生まれていくはずです。これが、まさに多様性の醍醐味です。この大学生活の中で、そのような環境を思い切り楽しみ、自分の成長に活かしていって下さい。持って生まれた多様性は変えられませんが、これから皆さんが、いろいろな体験を通して、後天的な多様性を高めていくことによって、さらに活躍の機会は広がっていきます。
多様性に目を向けて、あらゆる変化に対応できる未来人になって欲しいと、切に願っております。

本日入学される皆さんは、今、夢や希望にあふれ、これから学問の世界やスポーツで、新たな世界を目指し、第一歩を踏み出そうとしている皆さんです。時にはそれぞれの世界の深さにとまどいつつも、自分自身と闘いながら、前進して行ってくれると思います。今後の皆さんの成長を楽しみにしています。また、
ご家族やご関係者の方々も、このようなチャレンジを行おうとしている皆さんを、ぜひこれからも応援し、支え続けてあげていただければと思います。

皆さんの洋々たる前途を思い、お祝いの言葉とさせていただきます。
本日は、ご入学、まことにおめでとうございます。